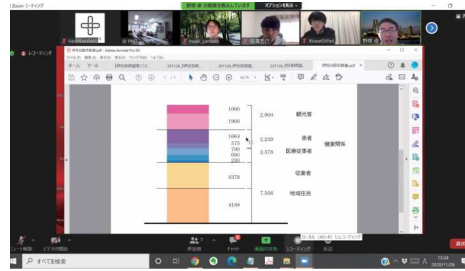




## 伊豆長岡温泉ミライ会議で3つの部会を開催！

伊豆長岡温泉ミライ会議では、2020年11月26日に第2回「まちづくり部会」、12月3日に「観光部会・コミュニティ部会」を開催しました。

会議では、2020年10月、11月のお散歩市で行った「第一回社会実験」、利用者や運営者を対象に実施した「アンケート」について報告しました。それぞれの結果を共有し、地域のみなさんの期待が徐々に分かってきました。頂いたご意見は、今後の社会実験に反映していきます。また、会議では「未来ビジョンのテーマ」や「伊豆の国市の未来年表」、「伊豆長岡エリア活性化マップ」等を扱い、過去の事実や未来への活動をビジュアル化しました。未来ビジョンのテーマとして取り上げた「交流人口」「定住人口」「周遊人口」「滞在時間」を今後どのように伸ばしていくか、オンラインで東京と伊豆長岡を繋いでワークショップも実施しました。



まちづくり部会の様子(オンライン)



観光部会・コミュニティ部会の様子

## お散歩市での第一回社会実験の報告

### 【1. 大学生のE-Bike周遊、動画で魅力発信！】

日本大学国際関係学部の矢嶋ゼミのみなさんにE-Bikeでの周遊を体験してもらいました。周遊は、伊豆長岡温泉を起点にしながら、農業や歴史の景観等を巡り、伊豆長岡に戻るルート。学生のみなさんには動画コンテンツを作成してもらっています。姫のあし湯に2組のカップルがデートで訪れる設定で撮影した場面もあり、観光イメージビデオとしても活用できそうです！



姫のあし湯での撮影風景

### 【2. 空き店舗活用、温泉駅の活用で賑わいづくり】

今日までのお散歩市は南山荘前を中心に行ってきましたが、温泉場出逢い通りの空き店舗2箇所と、加えて温泉駅も活用しました。空き店舗2箇所では、街角ギャラリーと「旅する古本」を実施し、温泉駅はE-Bikeステーションとして活動の拠点になりました。今まで「点」だった活動が「線」として繋がり、今後もっと地域に広がる活動として展開していきます！



温泉駅のE-Bikeステーション

### 【3. 地方と都心を繋ぐ「伊豆長岡温泉大学」始動！】

11月18日に「都心にいながら温泉街の賑わい作りに挑戦する複業人材」を募集するためのオンラインイベントを、伊豆長岡と天王洲アイルの coworking space を繋いで開催しました！伊豆長岡側はミライ会議のメンバーとして伊豆の国市地域おこし協力隊の方々に参加。都心側は、都心 coworking を運営しているトレジャーフットさん、その他オンラインで募集した12名の方に参加して頂きました。参加者は後日、伊豆長岡温泉に来ていただきました。都市と地方の人材の交流として、新たな関係がスタートしました！



オンラインで都心の人材と繋ぐ

## お散歩市でのアンケート結果

10、11月のお散歩市では、利用者や運営者を対象にアンケートを3つ実施しました！結果の一部をご紹介します。

①11月8日実施、利用者92名回答。高齢者が多く30代以下の若い人が少ない印象。お散歩市を知ったきっかけ、来場のきっかけ、参加して良かった点、今後への期待などをヒアリング出来ました。

道路を交流の場にする、子供向けへの企画に対して、期待の声が多かったです。温泉場出逢い通りにあたら良いものとして、一番は「座れる・ゆったりしたスペース」「カフェ・その他飲食」でした。

認知度アップや、交通誘導への声もあり、また、イベントの開催や新しい店舗の提案もありました。お散歩市に協力したいという方も10名いたので、今後お散歩市が雇用を生み出す場としても期待出来そうです。

②10月11日実施、出店者9名回答。空き店舗に出店する場合の条件では、「時間単位で借りられると良い」「仲間とシェア出来ると良い」等、シェアへの期待が高かったです。本プロジェクトへの認知度が低かったため、今後広報にも力を入れていきたいと思えます。

③街角ギャラリーでのみんなの「想い」アンケートは11月8日実施、回答者32名。老若男女問わず「カフェが欲しい」「若者が楽しめるように」「食べ歩き」や「写真映えするスポット」等への期待が多かったです。(右図)

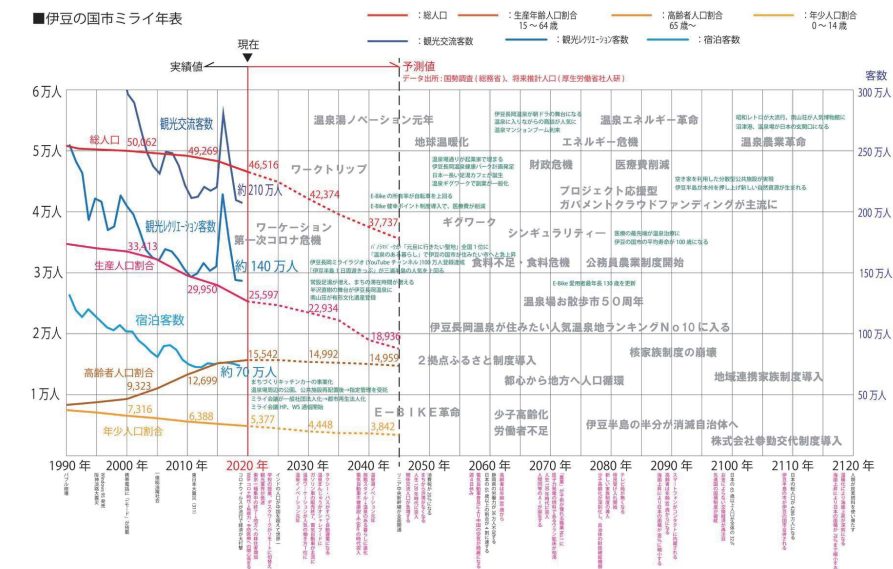


街角ギャラリーでの付箋アンケート



「みんなの想い」をビジュアル化

## 伊豆の国市ミライ年表を作成してみた、見えてきたこと



※特徴的なのは、平成27年に韮山反射炉が世界遺産に登録された際に、観光交流客数(日帰り)は増えているが、宿泊には大きく影響しなかったことです。宿泊者数を延ばすために、今後も議論を深めていきます。

左図は、伊豆長岡温泉ミライ会議の事務局が作成した「伊豆の国市ミライ年表」です。縦軸が「人口」、横軸が「年」を表していて、現在(2020年)に赤い縦線が引いてあります。この線より左が過去の実測値で、右が未来を予測した数値。2045年までの予測は、総合戦略の人口ビジョンが公表している数値を元に記入しています。毎年予測に変動がありますが、大きな流れとして、総人口と生産人口と年少人口は徐々に右肩下がりになっています。一方、高齢者人口は、1千人を切っていたのが徐々に上がっていく予測です。(年表の未来の部分に、社会的に想定されている未来の事象や、事務局で仮に想定した出来事を記載しました。)大事なのは、グラフ右肩下りの未来の流れを、現在の活動で変えていくということ！今後も、「未来に向けて今何が出来るか？」議論していきます。

